

# 実態調査の結果について

～ 生産者アンケート結果～

# 快適性に配慮した家畜の飼養管理に関する アンケート調査について

## 目的

我が国の家畜のアニマルウェルフェアに関する考え方等を動物愛護の観点のみならず生産性等多角的な観点から科学的知見に基づき整理するため、我が国の家畜の飼養管理の実態を調査する

## 調査方法

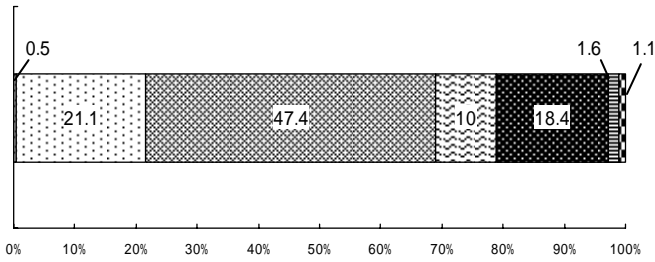
- ・対象：養鶏経営(採卵鶏)、養豚経営(一貫経営)  
酪農経営
- ・農政局等を通じ、都道府県毎に各畜種5戸程度調査を実施(各都道府県の調査戸数は、飼養戸数の多少に応じて、1, 3, 5, 10件のいずれかとした)
- ・各都道府県の経営規模の状況により、中小規模及び大規模経営から適宜選定
- ・有機畜産、放牧養豚等の特殊な飼養管理形態を除いた一般的に行われている飼養管理の経営を選定

## 調査戸数

- ・養鶏経営(採卵鶏)：190戸集計
- ・養豚経営(一貫経営)：183戸集計
- ・酪農経営：255戸集計

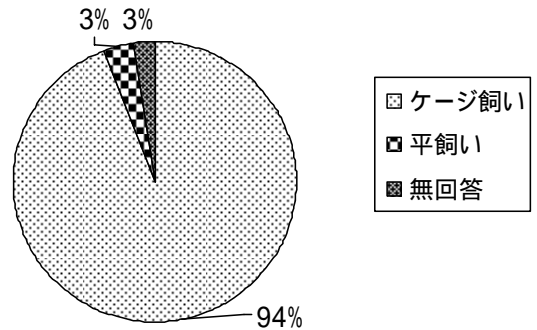
# 採卵鶏の飼養管理に関するアンケート

## 1. 経営規模について(年間成鶏羽数)



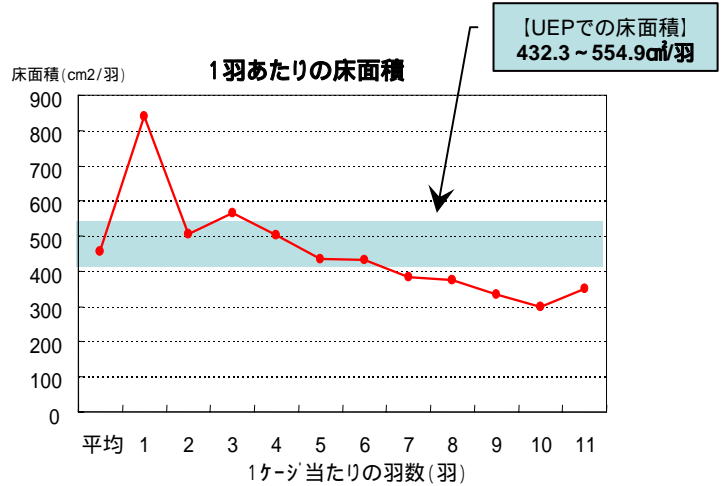
□ 0～1,000羽	□ 1,000～1万羽	■ 1万～5万羽
▨ 5万～10万羽	■ 10万～50万羽	▨ 50万羽～100万羽
■ 100万羽以上		

## 2. 飼育形態について

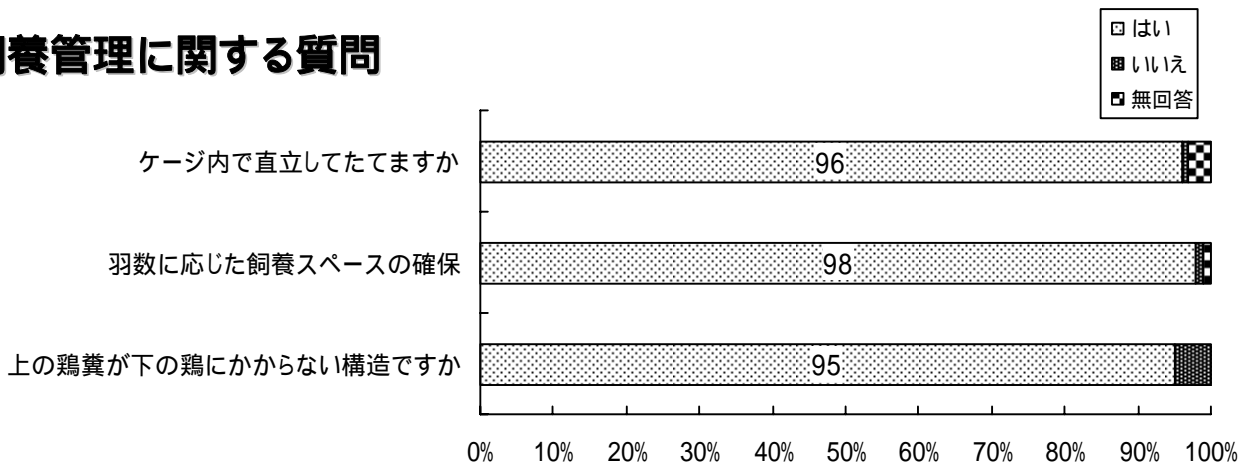


## 3. 飼養密度について

1ケージ当たりの羽数	調査数(個)	床面積 (cm <sup>2</sup> /羽)
1羽	15	839.0
2羽	118	506.1
3羽	12	564.9
4羽	8	501.7
5羽	13	435.5
6羽	24	431.2
7羽	9	383.4
8羽	2	375.0
9羽	2	333.3
10羽	2	300.0
11羽	1	350.0
平均		456.4

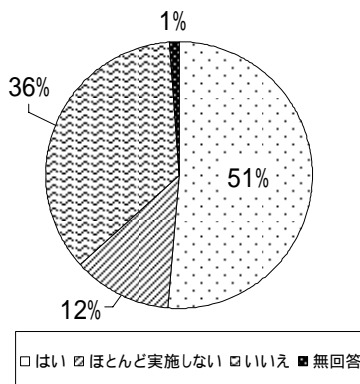


## 4. 飼養管理に関する質問

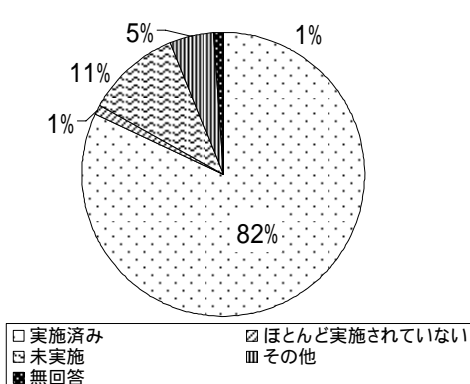


# 採卵鶏の飼養管理に関するアンケート

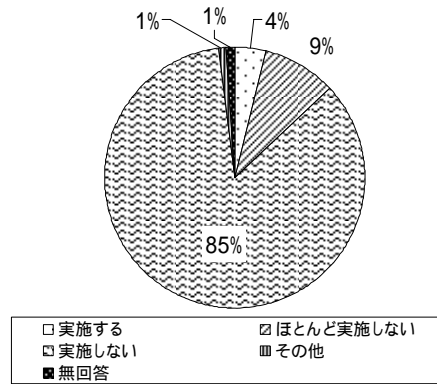
強制換羽を実施していますか



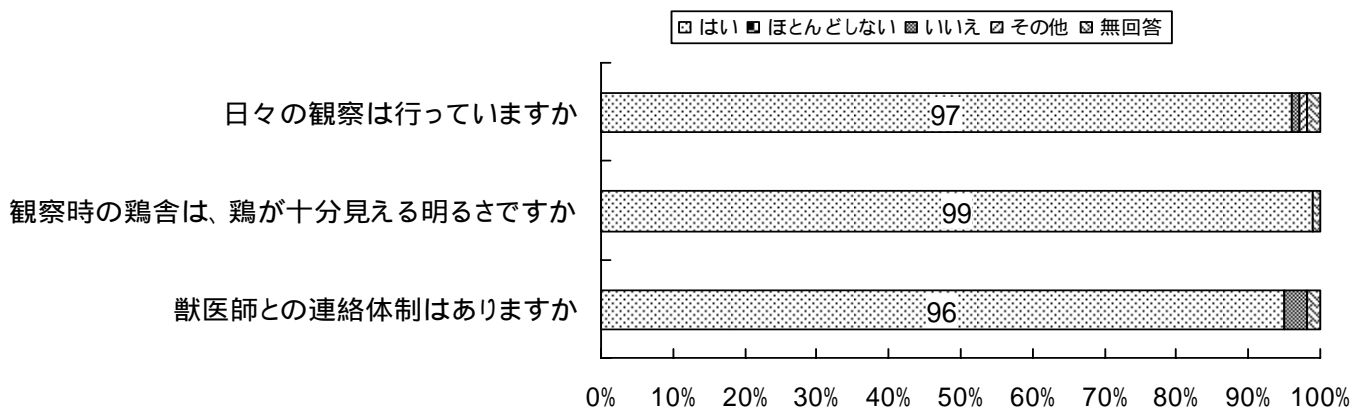
鶏の導入時にデビークは実施済みですか



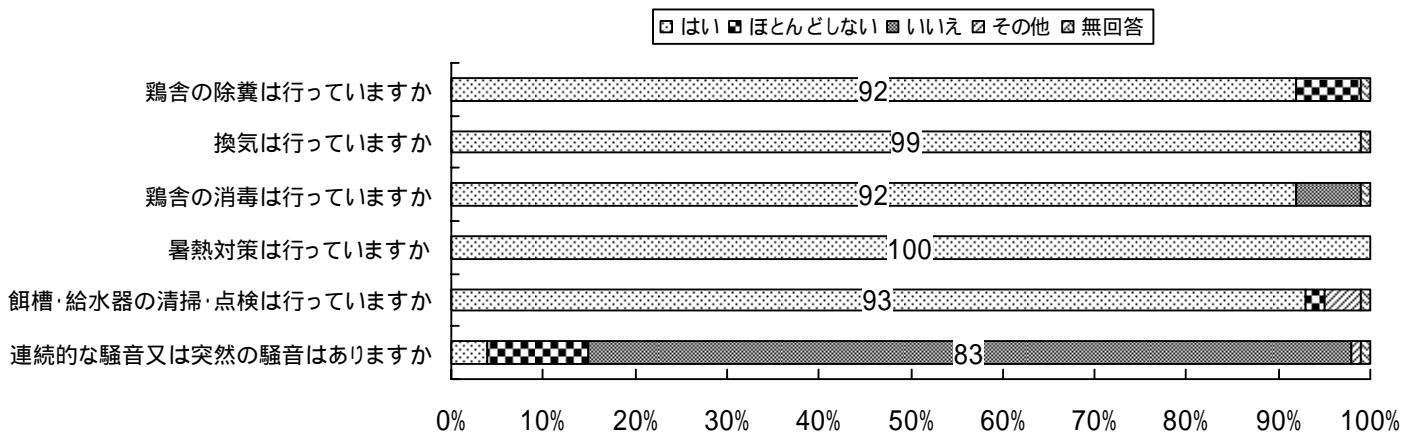
2次的なデビークは実施していますか



## 5. 健康管理に関する質問



## 6. 畜舎環境に関する質問



# 採卵鶏の飼養管理に関するアンケート

## 7. 飼育管理の上で大切なこと

- ・日常の管理で、鶏にできるだけストレスのかからないよう注意している
- ・鶏をよく観察し、数値管理を行い、小さな異常を早期に発見すること、病気にさせないだけでなく、その生産能力を最大限に発揮できるよう考えることが大切である
- ・鶏の健康を維持増進することが、品質のよい生産物(鶏卵)を生み出し生産性の向上にもなるので、常に健康管理には気を遣っている
- ・健康管理が第一なので、スペース・水・空気に気配りしている

### 【ケージ飼育についての意見】

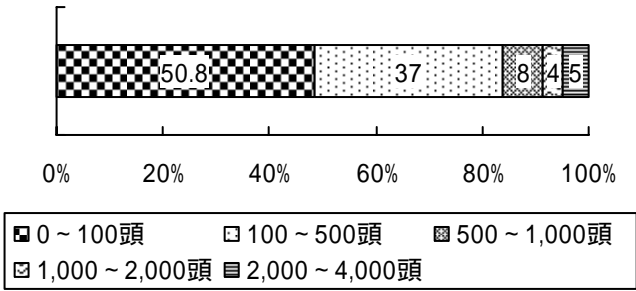
- (1) 大きな群が小さな群より幸せかどうか分からない(大きな群は管理が難しい)  
強いものと弱いものの差が大きく表われ、餌を十分に食べれるものと食べられないものが出てくる(peck order)
- (2) 一番良いことは、糞と分離されることである  
鶏は食べている所で糞をする。鳥類は飛ぶために消化時間が短い。餌場では糞が山積みになる。足が糞で汚れる。糞を介在した病気は多い。鶏は糞(細菌が入っている)を食べたり又触れたりする。足の裏が汚れたものが巣箱に入るとそこが汚染され、そこで卵を産むと卵の表面が汚される。清潔さが保持されない。低温流通を考えないと病気の培養となる
- (3) 現在のケージ飼育は、経営上必要である  
アニマルウェルフェアの観点から、飼養密度(1羽あたりの床面積)を低くしたり、ケージ飼育ができなくなった場合には、農地の敷地面積を広げる必要が生じる。それができなければ、鶏卵の販売単価を上げる必要があると考えられるので、生産者の経営面についてもよく検討して頂きたい

## 8. アニマルウェルフェアに関する意見等

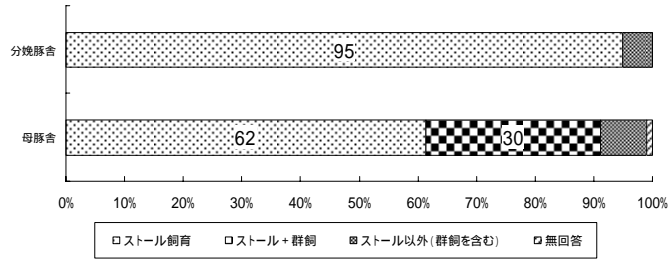
- ・動物に対する愛護の気持ちと我々の食生活を支えてくれる貴重な経済動物としての効率を求める気持ちの調和が必要。鶏をいじめようと思って飼っている人はいない
- ・鶏卵の安全性、鶏の健康、経済性を加味して検討していただきたい
- ・人間が、人間の立場や感覚、価値観、思考力で動物のことを考えてもアニマルウェルフェアにならない
- ・動物の生態をよく理解し、研究した上で基準を設けるべき
- ・ヨーロッパは異常な主張が通って異常な状態である。鶏にとってそれが必要なのだろうか。最も恐れられるのは、そのことでよその国のケージ飼いの安い卵が排除されてしまうことである。それは、生産者・消費者無視になる
- ・動物を大切にすることは経済動物においても必要なことであり、病気から守るためにワクチンを接種したり、適正な栄養の飼養を与えたり、衛生的な環境で飼育することは理にかなっている
- ・消費者からの意向であれば従わなければならないが、上からの押しつけにならないよう配慮してほしい
- ・アニマルウェルフェア = 安全には、必ずしもならないことをきちんとわかってほしい
- ・飼い方の基準を表示させる方法がいるのではないか、表示を明確に示し、消費者に選択してもらうのがよいのではないか？
- ・飼養者が快適に作業できる環境を作ることが、家畜にとって快適性を確保することにつながるのではないか
- ・EUでは廃鶏時の減耗率は、2～4割であり、原因が喧嘩によるものでした。私たちはこの減耗率を下げるため、日々努力している
- ・動物を大切にすることは、経済動物においても必要なことであり、病気から守るためにワクチンを接種したり、適正な栄養を与えたり、衛生的な環境で飼育している

# 豚の飼養管理に関するアンケート

## 1. 経営規模について(繁殖めす豚の頭数)



## 2. 飼育形態について



離乳子豚舎・肥育豚舎は100%群飼

## 3. 飼養密度について

### 分娩豚舎

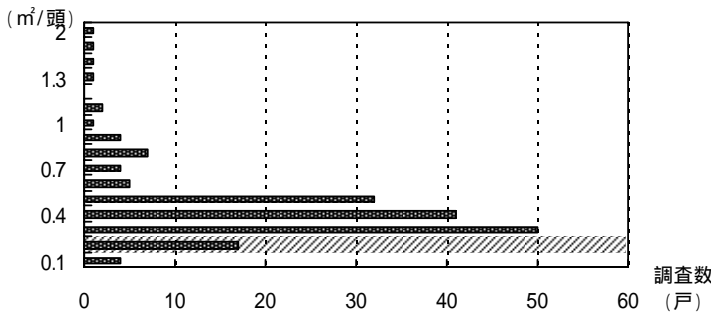
飼育方式	調査戸数 (戸)	飼養面積(平均) (m <sup>2</sup> /頭)	最小値 (m <sup>2</sup> /頭)	最大値 (m <sup>2</sup> /頭)	
ストール飼い	ストール部分	67	1.3	0.8	1.9
	分娩房全体	100	3.9	2.0	9.0
群飼	20	5.0	1.0	18.8	

### 母豚舎

飼育方式	調査戸数 (戸)	飼養面積(平均) (m <sup>2</sup> /頭)	最小値 (m <sup>2</sup> /頭)	最大値 (m <sup>2</sup> /頭)
ストール飼い	109	1.4	0.8	4.0
ストール以外	40	2.6	1.0	11.5

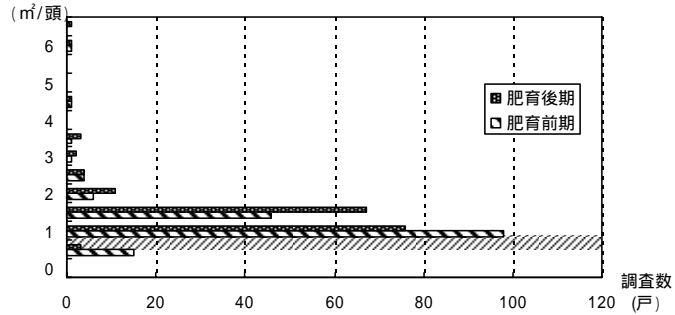
ストール以外のうち、放牧場1戸(75.0m<sup>2</sup>/頭)は除く

### 離乳子豚舎



飼育期間: 生後4 ~ 8週齢  
1頭あたりの床面積(平均): 0.40 m<sup>2</sup>/頭  
(最小値: 0.12 m<sup>2</sup>/頭、最大値: 2.0 m<sup>2</sup>/頭)

### 肥育豚舎



1頭あたりの床面積(平均)  
・肥育前期: 0.96 m<sup>2</sup>/頭 ・肥育後期: 1.20 m<sup>2</sup>/頭

### 【参考 ~ EU指令】

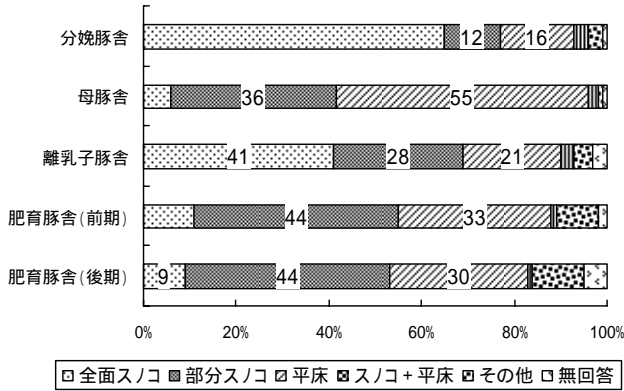
群飼する離乳子豚または育成豚についての  
1頭あたりの最低床面積 (m<sup>2</sup>/頭)  
グラフの網掛の部分



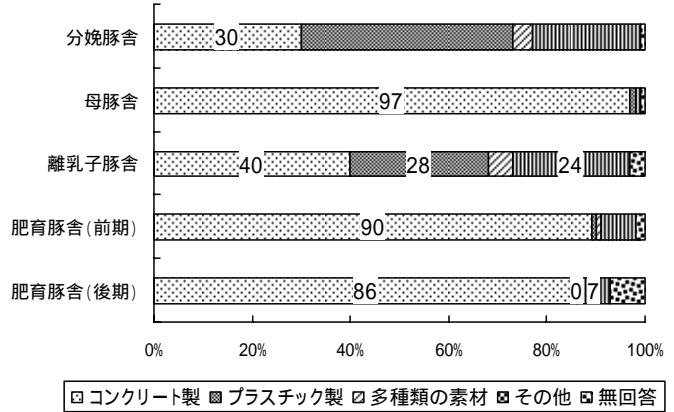
平均体重 (kg)	m <sup>2</sup>	飼育段階
10kg未満	0.15	離乳子豚
10 ~ 20kg未満	0.20	
20 ~ 30kg未満	0.30	
30 ~ 50kg未満	0.40	肥育期(前後期)
50 ~ 85kg未満	0.55	
85 ~ 110kg未満	0.65	
110kg以上	1.00	
種付け後の未経産豚	1.64	
群飼いの未経産/経産豚	2.25	

# 豚の飼養管理に関するアンケート

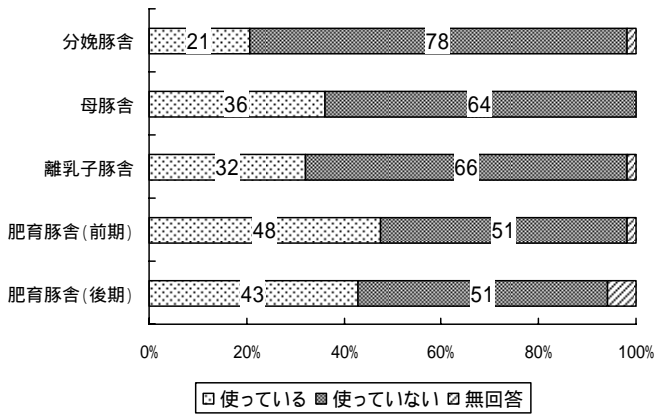
## 4. 豚舎の床の構造について



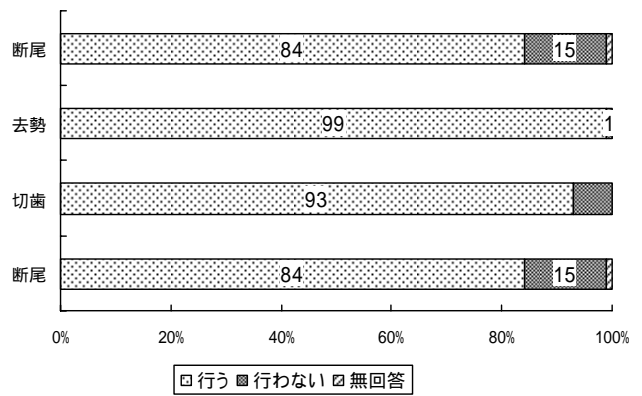
## 5. 豚舎の床の材質について



## 6. 敷料の使用状況

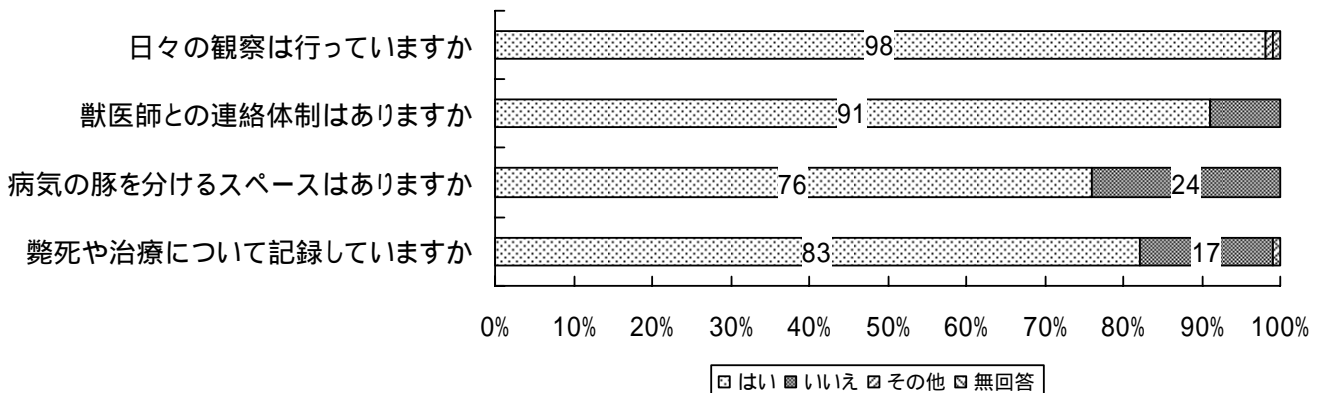


## 7. 外科的処置の実施状況



使っている  
 オガク、オガクズ、かなくず、籾殻、発酵床 等  
 (分娩舎:分娩時のみにワラ)

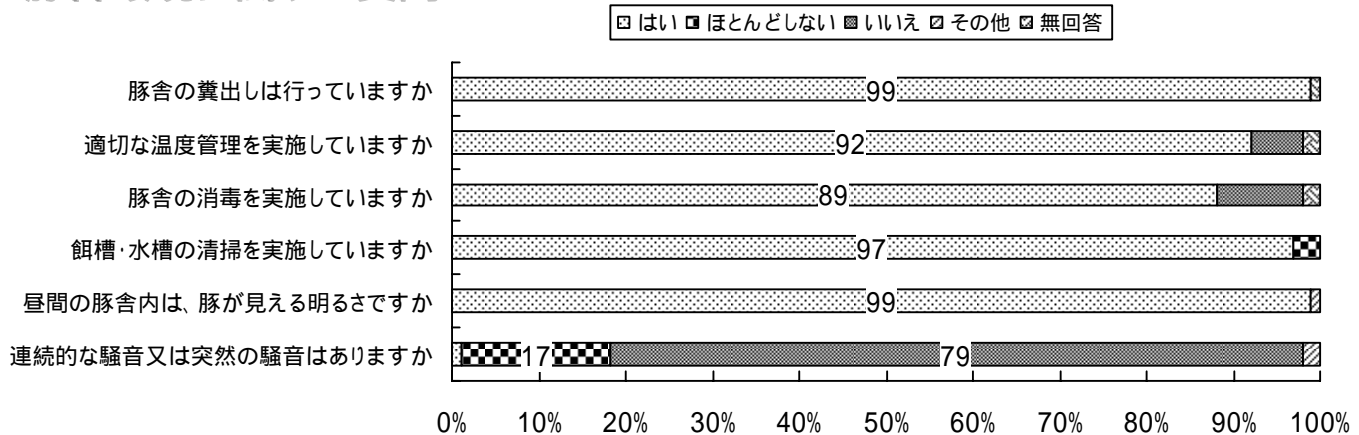
## 8. 健康管理に関する質問





# 豚の飼養管理に関するアンケート

## 6. 豚舎環境に関する質問



## 7. 飼育管理で大切なこと

- ・よく観察を行い、病気を早期に発見し、健康に育てることである
- ・愛情と正確な知識・技術とその実行
- ・自分の地域にあった管理システムを考えることである
- ・ストレスは養豚の生産性や肉質に悪影響を与えるので、各発育・繁殖段階の豚に対しストレスを最小に制御することが大切である
- ・病気にすることなく健康に飼うためには、豚を取り巻く環境を整えることが大切である。  
豚は空間を気にする性格なので、狭すぎてもよくないし、反対に広すぎても効率が低下する

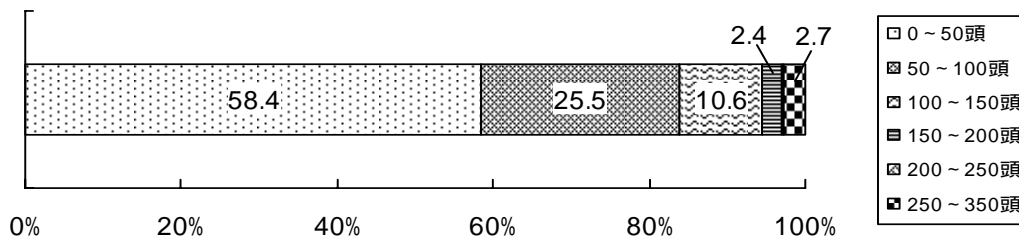
## 8. アニマルウェルフェアに対する意見等

- ・個体管理を行う上で、ストール飼育は必要な飼育管理方法である  
(母豚にとっても、死亡事故率の上昇、流産の増加、産子数の低下が予測される)
- ・現在の効率を求める飼育体系では、飼養スペースの確保と拡大は不可能である
- ・専業経営等大規模養豚では、土地・資本的制約は免れず、また、自然条件化の飼養では経済的に高度に改良された家畜は、却って糞尿汚染や伝染病疾病等の罹患、競合による損耗が生じやすくなる。このため、産業動物の機能を発揮させるため、快適な環境を人為的に制御した飼養管理を行うことが家畜の健康管理や環境保全上必要である
- ・畜産を行う上で、断尾等の処置は必要である
- ・断尾・切歯は必要のない処置ではないか？
- ・伴侶動物であるペットと、経済動物である家畜は、全く次元が異なる
- ・消費者は、いかに生産者が安全安心な豚肉生産のために努力しているか知ってもらいたい
- ・去勢の廃止には、消費者の理解が必要である
- ・全体の生産成績等を落とさずに行える「日本式アニマルウェルフェア」生産方式確立に向けた産・学・官共同の体制と助成金等の必要性を訴えたい
- ・豚舎は快適な飼育環境を作る場所だとの認識を持っている。放牧飼養については防疫上問題もある。牛も同様だが、イメージ戦略に使われているだけな感があるので、安全性・健全性に対する誇大イメージ戦略は消費者無視に等しい 等



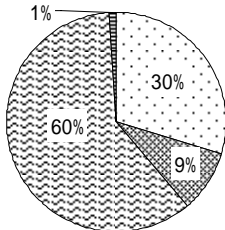
# 乳用牛の飼養管理に関するアンケート

## 1. 経営規模について(繁殖雌牛の頭数)



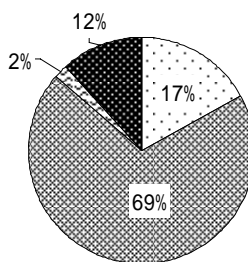
## 2. 飼育形態について

・子牛



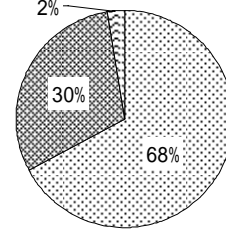
□ 単飼   ■ 群飼   ▨ 両方   ▩ 無回答

・育成



□ 単飼   ■ 群飼   ▨ 両方   ■ 預託

・成牛

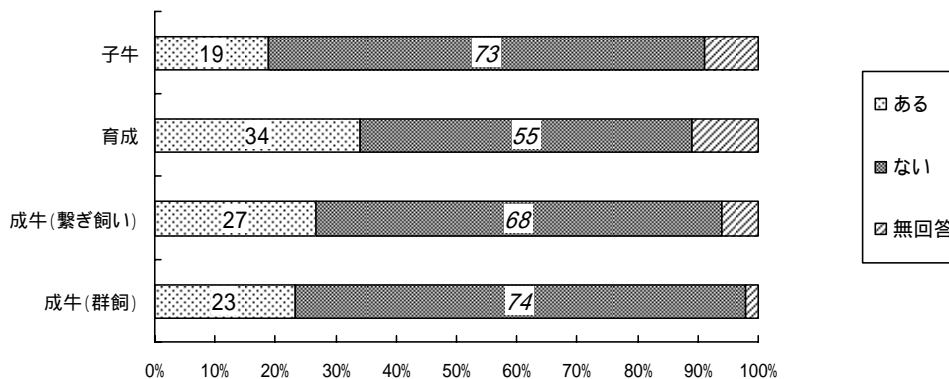


□ 繋ぎ飼い   ■ 群飼   ▨ 両方

## 3. 1頭あたりの飼養面積について

	飼育方式	1頭あたりの飼養面積(平均) (m <sup>2</sup> /頭)	備考
子牛	単飼	5.9	最長週齢:80週齢
	群飼	5.5	
育成	単飼	7	
	群飼	9.6	
成牛	繋ぎ飼い	2.5	ニューヨークタイ、タイストール スタンション、チェーン等
	群飼	14.3	フリーストール:13.5m <sup>2</sup> /頭 フリーバウン:15.2m <sup>2</sup> /頭

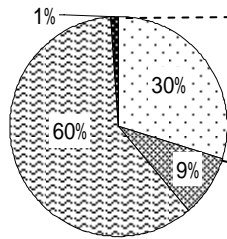
## 4. 放牧地の有無について



# 乳用牛の飼養管理に関するアンケート

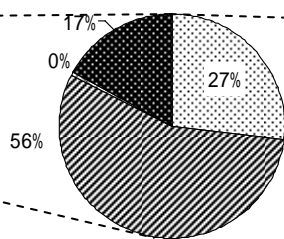
## 5. 子牛の繋ぎ飼いについて

・子牛の飼育方法は？



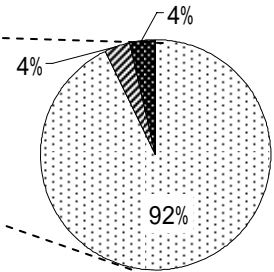
□ 単飼   ■ 群飼   ▨ 両方   ■ 無回答

・子牛を繋いでいますか？



□ 繋いでいる   ■ 繋いでいない  
□ 両方   ■ 無回答

・繋いだ子牛は自由に動くことができますか？

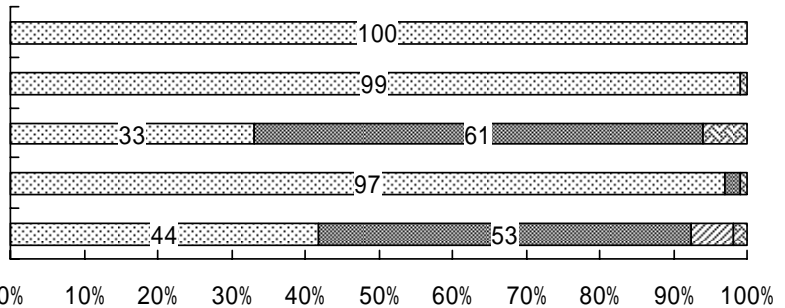


□ はい   ■ いいえ   ■ 無回答



## 6. 健康管理に関する質問

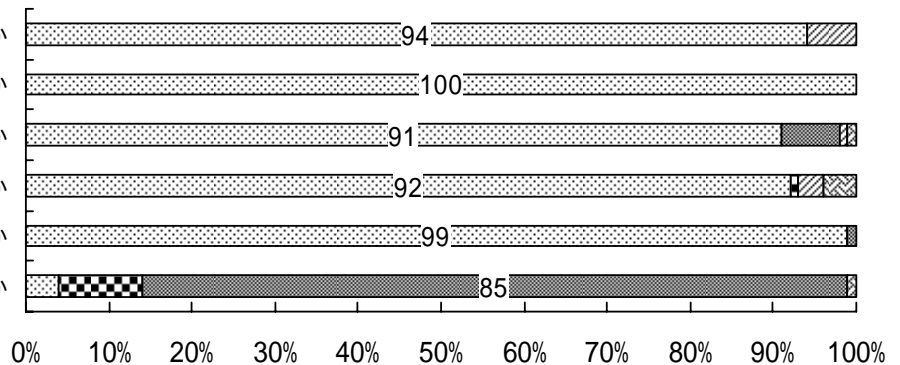
- 日々の観察は行っていますか
- 獣医師との連絡体制はありますか
- 健康な牛と病気の牛を区別できますか
- 斃死や治療について記録していますか
- 踏み込み消毒槽を設置していますか



□ はい   ■ いいえ   ▨ その他   ■ 無回答

## 7. 畜舎環境に関する質問

- 畜舎の糞出しは行っていますか
- 換気は行っていますか
- 暑熱対策は実施していますか
- 餌槽・水槽の清掃を実施していますか
- 昼間の豚舎内は、牛が見える明るさですか
- 連続的な騒音又は突然の騒音はありますか



□ はい   ■ ほとんどしない   ■ いいえ   ▨ その他   ■ 無回答

# 乳用牛の飼養管理に関するアンケート

## 8. 飼育管理の上で大切なこと

- ・牛は従業員と同じで、ちゃんとした飼い方をしないと生産が上がらない。家族と同じよう大切に扱うことである
- ・とにかく人に慣れさせ、神経質な牛に育てないことである
- ・牛の性格を把握できるように心がけることである
- ・哺乳～育成期を大切に育てることである
- ・良い自給飼料を生産することと、牛に無理をさせず、4～5産位までに搾乳することである
- ・日々の観察を十分に行うことである
- ・「愛情」一本

## 9. アニマルウェルフェアに対する意見等

- ・アニマルウェルフェアという言葉を使う前に、乳牛はストレスを与えないよう飼わなければ良い製品は出来ない
- ・産業動物とその他の動物で、アニマルウェルフェアの考え方を明確に分けてほしい
- ・海外のアニマルウェルフェアの概念をそのまま日本へ入れるのは困難ではないか？
- ・考え方は理解できるが、EUのように行き過ぎた取組みは我が国の現状には合わないのではないか
- ・日本の国土は狭いので、消費者に求められる畜産物を生産するためには、単飼で大事に飼養することが大切である
- ・土地条件の制約が大きいところでは、与えられた条件下で家畜に快適な環境と行き届いた思いやりのある管理が重要である
- ・牛の快適性の追求は、利益(所得)の追求であり、大事なことである。牛の気持ちを理解して牛を飼うことが結果的に所得につながる
- ・酪農家は、皆乳牛(動物)に対する愛情を持っている。経済動物ではあるが、家族の一員である
- ・ヒトにとって良い空間(環境)が、牛にも良い空間である
- ・国が法律等で規制することのないようにお願いしたい。これ以上、負担になる規制は止めてほしい
- ・立地条件もケースバイケースなので、一律の基準は実態にそぐわない
- ・アニマルウェルフェアに考慮したマニュアル的な飼養管理指針がほしい
- ・アニマルウェルフェアの考え方は、乳牛を健康に長期間飼養し、生産性を向上させる上で大変重要であるため、牛を快適に飼養できる環境についての検討をお願いしたい
- ・ポジティブリストと並び、所得安定対策の条件となる可能性はないか
- ・ウオーターカップの改善方法、カウコンフォート、快適で、安価で有効な暑熱対策等の情報がほしい
- ・アニマルウェルフェアはとても大切なことだと思うが、現状では費用の負担が大きい
- ・多頭飼育へのネックとはならないか心配である

## 10. その他の意見等

- ・起立不能になった牛を取り扱う屠畜場が限られているので、改善してほしい
- ・共済制度がアニマルウェルフェアに反しているのではないか
- ・育種改良も大きな意味では虐待であると感じる
- ・野生獣の対策